

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0792830036 | | |
| 法人名 | 株式会社 エコ | | |
| 事業所名 | グループホーム ほうすい 1 | | |
| 所在地 | 福島県西白河郡矢吹町北町85 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年3月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年12月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の構造を最大限に活かし、両ユニットを自由に行き来することができ、体力低下防止のための歩行運動や友人作りができる環境作りの工夫している。
 法人の温泉施設への外出支援を行事の一環としお花見、芋煮会、毎月の誕生会と催し、楽しく過ごすことができる。また、機能維持の為に体操や口腔体操を毎日行っている。
 両ユニットの利用者様を両ユニット全職員で個々の状態を把握し、情報の共有に努めている。また、安心安全、穏やかな毎日を暮して頂けるような支援に努めている。
 地域とのつながりを大切に、運営推進会議への参加や避難訓練の協力体制を得て、意見を頂きながら、より良いホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 開設4年目の事業所であるが、法人がこれまで培ってきたノウハウを活かして事業運営及び介護サービス等に対するバックアップ体制があり、全職員が利用者本位のケアを基本的に共通認識をもってサービスの実践に努めている。
- 2 事業所は防災意識が高く、消防署立ち合いの総合防災訓練の他に事業所独自で毎月あらゆる災害を想定して避難訓練等を重ね事業所の安全管理に努めている。
- 3 法人には温泉施設があり、事業所ではドライブを兼ねて入浴及び外食の機会を数多く実施しており、利用者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の申し送り前、1・2ユニットの職員合同で法人、ホーム理念、ホーム目標を唱和し共有して実践につなげている。又、一日の始まりの心構えとして再確認に努めている。 | 理念には「地域の方々を支えられ幸せに暮らせるよう支援する」ことが明示され、さらに「スタッフ目標」も作成しており、毎朝の「申し送りや会議」などで確認し、全職員が共通認識をもって日々のサービスに取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会への加入や地域の盆踊り、秋祭りへ顔を出したりと地域の一員としてつながって行けるよう努めている。回覧板により地域の情報も得ている。 | 地域の行事には積極的に参加している。また、近隣企業や住民の方からは豪雪時の除雪や植木の剪定などの協力を得ており、さらに野菜等の差し入れもあるなど友好関係を築いている。ボランティアも多く受け入れており、なかでも童謡の歌唱披露は利用者から好評であり楽しみとなっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通して事業所の成果、役割を伝えている。地域支援の情報交換の場にて認知症の人の理解や支援に活かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回会議を開催し、ホーム状況を報告して、意見を頂きスタッフ会議及び議事録に目を通し全職員に伝えサービスの向上に活かしている。又、避難訓練に協力頂き意見をもらうなど活かしている。 | 運営推進会議は定期的開催され、事業所の現況報告をはじめ事故及び行事の報告等多岐にわたっており、議事録も詳細に記載されている。委員から様々な提言があり、事業所運営やサービスの向上に活かされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 矢吹町社会福祉協議会主催の情報交換会に積極的に参加したり、町の担当課、地域包括支援担当へ相談したりと連携を取り協力関係を築けるよう取り組んでいる。入居、退去時の報告も町の担当課へ伝えている。 | 開設当初から行政の担当者とは事業所の事業内容や利用者の相談等を通して協力関係を築いている。また、生活保護関係の職員とも常に連携を密にしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の研修に参加し、研修報告をスタッフ会議時に職員へ伝達、常に玄関の施錠はもちろん拘束をしないケアを実践し、利用者様に寄り添う介護に取り組んでいる。研修報告書は全職員が目を通している。 | 「身体拘束をしないケア」の実践には、マニュアルを基に研修を重ね、全職員が意識を共有して日々のサービスに努めている。言葉による拘束についても職員間で常に注意あっている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員は研修を受け、スタッフ会議時に報告、伝達し徹底防止に努めている。又、職員のストレスにより精神的虐待にいたらないよう、管理者、主任が聞き手となりサポートを行い防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、スタッフ会議時職員に伝達、報告書に目を通し学んでいる。今後、必要な利用者様に活用していきたい。現在活用はしていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、事前にご家族へ連絡して十分な時間を取って頂き説明を行い理解、納得できるよう図っている。又、解約時も同様である。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族からは面会時に意見を頂いている。利用者様からは日々の関わりの中で、意見を聴いたりしている。その内容をスタッフ会議等で検討し、要望等に応えるよう努めている。 | 家族が気軽に何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けている。また、面会時や利用者の状況報告等の機会をとらえ意向の把握に努めている。出された意見や要望等は随時「職員会議」等で検討され運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のスタッフ会議時には、できるだけ全職員が参加し、意見を述べる機会を設けている。スタッフ会議議事録も全職員が目を通している。 | 日常の業務の中で職員は気づいたこと等をなんでも言える体制となっている。また、管理者は「スタッフ会議」を通して職員の意向や要望を把握している。提案事項によっては法人と連携して、職場環境や職員の福利厚生等に取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人は、事業所や職員が向上心を持って働けるよう、実績、勤務状況を把握し職場環境、条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個人の能力、性格に合った研修へ参加している。法人内や外部への研修に参加し、各々のケアの質の向上に努めている。また働きがいをもてるよう、職員の声に耳を傾けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 2ヶ月に1度、矢吹町社会福祉協議会主催での勉強会に参加し、同業者との検討会や交流に努め利用者様へのサービスの質の向上をさせて頂く取り組みをしている。また、情報交換にも努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談から利用にいたるまで、本人と寄り添いながら不安、要望などに耳を傾けている。また、居場所が出来て安心につながる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談から利用にいたるまでの家族様の気持ちを受け止め、要望や不安などの思いを理解しながら家族様が納得して安心して頂けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の状態やご家族からの要望を受け止めながら、必要としている支援を見極めている。安心して暮らして頂けるよう他サービス利用も検討しながら対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家族の一員として共に過ごし、日々の生活の中で支え合う関係を築いている。また、関わっていく時間を多く持ち、本人をより深く理解していく事にも努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 訪れやすいホーム作りに全職員は常に心がけ、大切にしている。また、家族様の思いを受け止め、家族様と共に本人を支え合う事ができる関係を築けるよう努めている。外出の協力をお願いし、関わって頂ける働きも行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様の馴染みの店での嗜好品の買い物や散髪、知人が訪ねて来られたりと関係が途切れないよう、支援に努めている。また、知人宅への訪問が出来るよう家族様への協力の働きも行っている。 | 利用者の友人、知人の面会も多く、これまでの関係が継続できるよう支援している。馴染みの商店や理美容院の利用は家族の協力を得ており、外食や墓参り等にも出かけている。ユニット間の交流は利用者同士自由に行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりの利用者様の性格を把握して利用者様同士が穏やかに生活できるよう努めている。日々リクリエーション等を通して楽しい時間が共有できるようにも努めている。また、両ユニットを自由に行き来しての友達作りの支援にも努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も訪れやすい体制を整え、必要に応じて相談や支援等の対応をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、利用者様の思いを聴き、希望や意向の把握に努めている。また、両ユニット合同のケース会議時に検討している。 | 職員は担当制となっているが、毎朝その日の勤務体制の中で利用者の担当を決め、全職員が両ユニットの利用者の状況を把握できるようにしており、利用者に対して新しい発見もあり、全職員が情報の共有に努めている | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様、家族様に話を聞き生活歴や生活環境、馴染みの暮らしの情報の把握に努めている。また、入居後も日々の関わりの中で、情報を収集したり、面会時に聞いたり努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の生活パターンや心身の状態を把握し、一人ひとりの力を最大限に引き出す声かけやケアを全職員が一丸となって心がけている。ケース記録にて両ユニットの職員が全利用者様の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人がより良く暮らすために、ご本人や家族様の意見や要望を聞き、両ユニット合同でケース会議時話し合い介護計画を作成している。又、状態変化時においても家族様と話し合い、状態に即した計画の見直しを行い作成している。 | 利用者の現状把握を十分に行い、利用者本位の介護計画を作成している。また、担当者を中心に日々のケアの中で利用者の変化を見逃さずに記録し検討会議等で話し合い、利用者の現状に即した介護計画の見直しをしている。状態の変化時には随時介護計画を変更している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録は介護計画に即した実践が記入できるようにしてある。個別記録の情報を職員は日誌に目を通したり、朝、夕の申し送り時に共有している。又、合同で行うケース会議に反映させ、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様や家族様の状況に応じてや状態に合った柔軟な支援やサービスを提供している。又、機能低下の予防として両ユニットを自由に歩行できるよう取り組んでもいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地区の盆踊りや秋祭りに参加したり、他ホームへ出かけたり、ボランティアを招いての行事を行ったりと楽しむ支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族様の希望を大切に、かかりつけ医の受診や往診を行っている。家族様や主治医への連絡を密にし、事業所とかかりつけ医の関係を築いている。また、家族様に代わり通院に付き添う体制もある。家族様への報告もしている。 | かかりつけ医の受診を支援しており、受診は家族対応が基本である。緊急時等には職員の同行もある。往診も受け入れており、医療機関との連携により適切な医療が受けられる体制となっている。受診結果は家族と情報の共有をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回、医療連携を利用し、ホームの介護業務兼看護師と健康管理をしている。訪問看護師と情報の共有を図ると共に主治医と連絡を取り、状態変化時に適切な指示を仰いでもらえる支援をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者様の入院先に、面会をし状態確認を行っている。又、主治医や医療相談員を交えて家族様と話し合い情報を共有し退院に向けての支援を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化、終末期について説明を行い同意書を得ている。研修を通して全職員が意識の共有化に努め、ホームで出来る事の指針も説明している。又、主治医や家族様との話し合いの場を持つ支援にも努めている。 | 重度化や終末期のあり方について、事業所指針により本人・家族に説明し、意向を事前に書面で確認している。事業所では研修を通して職員の意識の向上に努め、さらに医療機関と連携を図りながら、家族の意向を踏まえ柔軟に対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人独自のマニュアルにより対応に備えている。また、地域の法人主催、消防署救急隊の研修に参加、職員は応急手当等を学び実践力を身につけられるように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の総合避難訓練を地域の方の協力体制を得て消防署と本社工立合いの下、行っている。又、毎月の自主訓練も独自に行い、慌てず安全に避難できるよう繰り返し行っている。 | 消防署立会いの年2回の総合防災訓練には運営推進委員である地区代表者等の協力を得て実施している。事業所独自で毎月あらゆる災害を想定して避難訓練等を重ね事業所の安全管理に努めている。非常時の備蓄品として食糧・水・携帯ポンペ・コンロ等も備蓄されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の尊厳やプライバシーを損ねないよう傾聴に努め、日々のトイレ時の声かけやケアなど寄り添いの対応に心がけている。又、個人情報の保持にも努めている。 | 職員と利用者は互いに信頼関係のもと、日常生活の支援に努めている。利用者一人ひとりの思いや状態に沿った言葉かけをし、利用者の人格を尊重した対応を全職員が心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で利用者様の思いや希望に耳を傾け、常に利用者様の立場に立ったケアを提供し、自己決定ができるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切にし、利用者様の気持ちや行動を読み取り、日々その人らしく過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | かかりつけ医への受診や外出の際は利用者様と一緒に選んだり、声かけにて身だしなみを整えたりとおしゃれができる支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 食事が楽しめるように職員と利用者様と一緒にコミュニケーションを図り楽しく召し上がれるよう支援している。又、下膳や一緒に片付けたりと出来る事の支援もしている。1日1回口腔体操を行い、食べる楽しみが継続できるよう努めている。 | 献立は法人が作成し食材は系列会社から納入している。調理のみ事業所で行い、季節や利用者の希望等により臨機応変に変更している。職員は利用者とともに食卓を囲み楽しい食事風景となっている。おかゆや刻み食等にも対応している。また、行事食も多く企画し実践している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者様一人一人の状態を把握し食事の時間や形態、量など栄養バランスに注意し支援している。水分量や食事量の記録も行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアの声かけや見守りを寄り添いながら行い、必要に応じての介助を行っている。夜間帯は義歯を預かり薬品につける対応など日々清潔保持に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 全職員が排泄のパターンを把握し、耳もとの声かけや誘導を行い、トイレで失敗せず気持ち良く排泄できる支援を行っている。又、できるだけ綿パンツで気持ちよく過ごすことのできる支援も行っている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンや排泄前の行動などを把握し、可能な限り排泄の自立に向けて支援している。全職員が利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した声かけを心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日のラジオ体操や創作体操、両ユニット間の自由な歩行運動を取り入れたり働きかけている。又、独自のチェック表にて水分量を確認し、必要に応じて水分を提供し自然に排泄できるよう取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者様の体調を確認しできるだけ希望日を取り入れたり、入浴剤を使用したりと工夫し、楽しんで頂けるよう支援に努めている。又、仲の良い利用者様同士で入浴を楽しめる支援もしている。 | 利用者の希望により入浴ができる体制となっている。複数での入浴や季節感のあるゆず湯や入浴剤などを楽しんでいる。法人では温泉施設を所有しており、ドライブを兼ねての入浴を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 晴天時に布団を干したり、適度な運動などできる事の支援を行い、気持ち良く眠れるよう支援している。夜間帯の不穏時は傾聴や安心して眠れるまで一緒にホールで過ごす支援もしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の内容を全職員が理解し、薬の保管も鍵をかけ、毎食後管理し誤薬を起こさない様責任を持ち十分な注意に努めている。服薬変更時は、申し送りや日誌記入し、職員同士しっかりと伝達し変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様一人一人の出来る事を考慮した上で、役割を見つけ一緒に行うなど、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。又、嗜好品の提供や散歩の気分転換等の支援もしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎月の行事の一環として、法人の運営している温泉へドライブを兼ねての入浴外出や嗜好品の買い物、お花見、芋煮会等出かけられるよう支援している。又、家族様や知人と外食、お墓詣り、自宅へ行く事など、ご家族の協力を得て出かけられる支援もしている。 | 季節ごとに花見や公園の散歩等を楽しんでいる。同法人の事業所に出かけ、合同での音楽療法等の行事に参加している。ドライブでの温泉入浴は特に好評であり、数多く実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事業所で毎日残金を確認し鍵をかけ、入居者様がいつでも使えて安心できるよう管理し支援している。家族様へ報告は毎月お手紙にて報告している。金額の高い物の購入希望がある際はご家族へ確認し対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があった場合の電話の支援や代筆での海外へのお手紙や、ビデオレターのやり取りができる支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は、常に整理整頓を心がけ、明るく清潔を保ち居心地のよい空間になるように、気を配っている。又、利用者様の手作りの作品も飾り生活感を感じて過ごすことができる工夫もしている。 | 事業所は平屋建てで直線に2ユニットが対称に作られている。中央に事務室があり見通しが良く、利用者は自由に行き来している。共用空間は明るく壁には利用者の手作りの季節感あふれる作品等が飾られ居心地の良い空間になっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 新聞を読んだり、テレビを観たり、隣のユニットへ自由に移動したりと気の合った人とお話ししたり出来るよう支援に努めている。独りで過ごす居場所の工夫もしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | 利用者様が大切に使用していた馴染みの家具や写真、絵画の配置や、家族様からのお手紙を飾ったりと居心地良よく、安心して過ごせその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮している。又、プライバシーを大切に排泄等が安心してできるように配慮をしている。 | 居室は空調設備・換気扇・洗面トイレ・介護ベット・ナースコールが標準装備されている。利用者は使い慣れた整理ダンスやテレビ等を持ち込み、居心地良く安心して過ごせる部屋となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安心、安全に自立して生活が送れるよう、共有スペースに手すりが設置されている。又、常に通路の確保に注意、安全に自ら出来る限り移動できるようにしている。 | | |